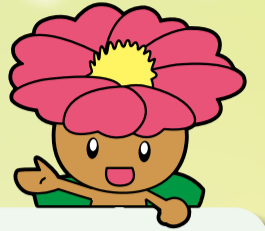


特集1

子どもの学習と成長を地域で支える

新型コロナウイルス感染症の影響で、子どもたちは学校でも家庭でも、これまでとは異なった環境で過ごしています。子どもの学びを大人はどのように見守れば良いでしょうか。子どもの自己肯定感の観点から、武庫川女子大学教育学部教授 ^{やのひろし} 矢野裕俊先生に伺いました。



■コロナ禍で進む経験の貧困

新型コロナウイルスによる感染症の蔓延が長期化する中で、子どもが置かれた状況はさらに厳しさを増しているようです。小・中学校に通う子どもたちにとっては、学校が生活の主要な舞台であるにもかかわらず、休校を余儀なくされ、タブレット端末によって家庭で授業を受け、登校できた場合でも、運動会や体育祭、音楽会、修学旅行などの行事が満足に行えないということが大阪市でも見られました。

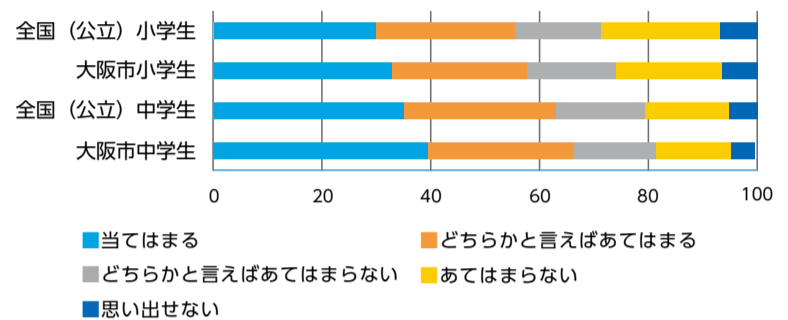
令和3年度全国学力・学習状況調査の大阪市の結果によると、新型コロナウイルス感染症の拡大で多くの学校が休校していた期間、勉強について不安を感じた子どもの割合は、小学校6年生で58%、中学校3年生で66%と、いずれも6割前後で、しかも全国平均を2~3ポイント上回っています。他方、テレビゲームをする時間はコロナ禍の中で大きく増加し、小学校6年生で36%、中学校3年生で45%が1日に3時間以上をテレビゲームに費やすと答えています。こちらの数字は全国平均を大きく上回っています。コロナ禍の中で子どもの生活は不安が募り、孤立が深まっているようです。

子どもが健全な成長を遂げるためには物質的な生活基盤の安定がもちろん重要ですが、それだけではなく、様々なことを経験する機会が必要です。そうした機会が不十分な状態が続くことがもたらすダメージは子ども自身にとっても社会にとってもたいへん大きいものです。学校は子どもたちが成長に欠かせない経験の機会として重要な場ですが、学校にばかりその役割を期待するのではなく、地域社会が引き受けることでもあります。

■オンライン学習の導入とその課題

コロナ禍の中で、学校では遠隔授業の実施のために、1人1台の通信端末を配付するなど通信環境の整備が急速に全国で進められました。しかし大事なことは端末の配付ではなく、1人ひとりに合った個別最適な学びを実現することです。オンラインでの学習はそうした個別最適な学びを進めるうえでは有効な方法になる可能性をもっています。家庭での自主学習にも大いに利用することができるはずです。しかし、そのためにはいくつかの課題があります。学校内の通信ネットワーク環境が整備され

令和3年度全国学力・学習状況調査結果
新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じた児童・生徒の割合



るだけでは不十分で、家庭を含む学校外でのネットワーク環境の状態如何によって子どもの学習は大きな影響を受けるからです。オンライン授業が進んでいる韓国や欧米でも、機材が十分に行き渡らず、家庭の経済状況で遠隔授業や学習が満足にできず、格差が広がっているとの指摘もあります。

オンラインでの学習のためには、ハード面の整備だけでなく、自発的な学習を促すすぐれた教材が必要です。コロナ禍でいやおうなく進んだオンライン学習ですが、これまでの経験を検証することが今後のためにきわめて重要です。学校だけでなく地域社会においても、オンラインによる授業や自主学習がどのように行われたのか、そこにはどのような課題があったのかを探ることが求められています。そうした検証においては、当事者である子どもたちの声にぜひ耳を傾けたいものです。

■地域に子どもの居場所と豊かな人間関係を

学力の向上には学習のための落ち着いた環境、子どもが安心していられる居場所が必要です。精神的な安定が得られ、自分に対する信頼をはぐくめるような居場所で、人と人との多様な関係性が築かれなくてはなりません。自分に対する信頼は自己肯定感と呼ばれますが、それは、①自分自身に対する肯定的な認識(自分にはよいところがある、自分が好きだ)、②自分がつ将来展望(自分には夢や希望がある、がんばれば報われる)、③自分と他者との関係に対する認識(自分は友だちから好かれている、周りの人から認められる)、という3つの要素から成り立っています。地域社会との関わりでは、③が重要です。地域での大人と子ども、子ども同士の関係が広がることによって、子どもは他者から受け入れられ、認められ、そのことに気づく経験も広がります。

学習意欲はこうした子どもを取り巻く「つながり」と深く関わっているとされます。地域社会で子どもの学習と成長を支える「つながり」を豊かに築くこと、そこに子どもの学力向上と未来を切り開く力を育てる鍵がありそうです。

プロフィール



武庫川女子大学
教育学部教授・教育学部長 ^{やのひろし} 矢野 裕俊

2019年度から現職
2003年度から2010年度まで大阪市立大学、大学教育研究センター教授

主な著書

『人間教育をめざしたカリキュラム創造-「ひと」を教える教育をつくる-』(古川治と共編著、ミネルヴァ書房、2020年)『子どもの貧困/不利/困難を考えるⅢ-施策に向けた総合的アプローチ-』(埋橋孝文・田中聡子・三宅洋一と共編著、ミネルヴァ書房、2019年)『子どもの貧困/不利/困難を考えるⅠ-理論的アプローチと各国の取組み-』(埋橋孝文と共編著、ミネルヴァ書房、2015年)

詳しくはこちら

